

自閉症に対するイメージ

——介護福祉士養成校に通う学生とその家族を対象とした調査——

A study of Images of Autism by Students of Care Worker course and their Family members

○石川麻由¹・後藤かおり²

Mayu Ishikawa¹ & Kaori Goto²

水戸看護福祉専門学校介護福祉学科¹, 水戸看護福祉専門学校²

Mito Nursing & Welfare College Care Worker course¹, Mito Nursing & Welfare College²

Key words: Autism, Students of Care Worker course, Family members

問題と目的

森内・西岡 (2013)は、養護教諭を志す大学生を対象に、自閉症に対するイメージと理解度への調査を行い、大学3年生となると、より専門的知識に裏付けられたイメージが導きだされることを明らかにした。介護福祉士を志す学生にとっても、自閉症への正しい理解は、援助を行う上で重要である。本研究では、介護福祉士養成校に通う学生を対象とし、自閉症に対するイメージの調査を行った。また、介護を専門的に学んでいるわけではないうちであろう学生の家族も対象とし、学生との比較を行うことを目的とする。

方法

対象者: 介護福祉士養成校に通う学生と、その家族(保護者及び兄弟姉妹)を対象に質問紙調査を行った。学生は24名(男性13名・女性11名、平均年齢22.9歳、標準偏差9.4)、家族は34名(男性14名・女性20名、平均年齢48.8歳、標準偏差13.3)であった。

手続き: 調査にあたっては、質問紙調査を実施した。学生は、教室の一室を使用し、集団で実施した。家族に関しては、質問紙を学生が各自家に持ち帰り、その後、協力いただけた場合のみ、回収した。質問紙は、森内・西岡(2013)で使用された内容を引用し、一部に変更を加えた。内容は全部で6問であった。第一に自閉症の印象、第二にその理由、第三に自閉症の原因、第四にメディアによる自閉症の情報の有無、第五に自閉症児・者と関わった経験の有無、第六に自閉症のイメージ調査であった。

倫理的配慮: 質問紙は、性別と年齢のみ保持し、個人を特定できるような情報は書面に残さず、連結可能匿名化によって番号のみで処理することとした。なお、対象者は、いつでも参加を中止できることとした。

結果

自閉症の印象では、学生も家族も、「自分の心を閉ざす」「他者との関わりが苦手」「こだわりが強い」という意見であった。その理由としては、学生の33%が「直接体験」と答え、家族は24%が「メディア」、21%が「直接体験」であった。自閉症の原因に関しては、学生は「心の傷」と「器質的なもの」がそれぞれ25%を占めた。家族は、

「器質的なもの」が24%、「心の傷」が15%であった。第四と第五の結果は、図1のとおりであった。

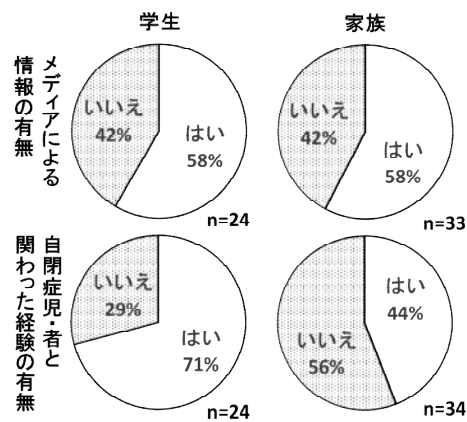


図1 学生と家族のメディアによる情報の有無と、自閉症児・者と関わった経験の有無

図1から、メディアからの情報は、学生も家族も共に「はい」が58%、当事者と関わった経験は、学生が「はい」が71%、家族が44%であった。自閉症のイメージに関しては、学生の約80%が「会話が苦手」「過敏」、家族は、88%が「孤立している」「会話が苦手」、そして78%が「こだわりが強い」というイメージを持っていた。

考察

学生と家族とでは、自閉症児・者と関わった経験の有無のみ、違いが見て取れたが、それ以外は大きな違いはうかがえなかった。家族も福祉に携わっている者が多い可能性が考えられる。また学生も家族も、正しい理解をしている者もいれば、自閉症の原因が「心の傷」といった誤ったイメージを持っている者も見取れた。自閉症児・者の正しい理解のためには、メディアや直接に当事者を見るだけでなく、正しい情報を得たり、学ぶことが重要であるとうかがえる。

引用文献

森内 幹・西岡かおり (2013). 自閉症に対するイメージと理解度——養護教諭を志す大学生を対象とした調査——, 四国大学紀要, (B) 37, 1-7